

1 チーム名 (研究対象領域・教科) 高等部作業学習②グループ				
2 メンバー		高等部教員 8名		
3 チームのテーマ 『～Change あともう少し』 ～みんな、いい物は持っている。どう引き出すか。みんなで考えてみる～				
4 対象児童生徒に願う主体的な姿 <u>自分で考えて行動することができる生徒</u> 「自分でやることがわかったり、次にやることを見つけ、進んで取り組むことができる生徒」 ↓ 我々は、『 <u>環境の設定</u> 』が大切というのはすでに知っている。 その中で『 <u>教師の言葉かけ・見本となる生徒の存在</u> 』に視点をあててみた。				
5 研究仮説① 環境の工夫 (教師の適切な言葉かけ、見本となる生徒の存在) によって、作業がわかりやすく、自分の能力にあった作業を力一杯やることができれば、生徒が自ら考える力が育ち、徐々にやり甲斐や責任感が出てきて進んで作業に取り組んでいくことができるのではないか。				
6 研究実践の内容 (1) 実際の作業学習への取り組み				
対象生徒	班の特性、現状	生徒実態	指導状況 (5月)	行動状況、変化 (11,12月)
農芸班 : (2年) A	・1年を通しての作業が多く内容も多岐 (土作り、種植え、肥料巻き、除草、水やり、収穫等) にわたり見通しの難しさがある。 ・単発的で体を使った作業になることが多い。	・教師の指示待ち ・周りに流される	・同班に先輩など見本となる生徒はいる。 ・行動に移す時に、言葉でのきっかけは必要。 ・具体的な指示は行わず「次は何をするか周りをよく見て」の言葉かけで、一度考える時間を取る。	・先輩や同班の生徒の様子を見ているが、それによって自ら行動に移すことは少ない。 ・ <u>先輩、教師に具体的に言葉をかけてもらうと活動できた</u> 。やることがわかると黙々と取り組むことができる。 ・同じ作業の繰り返しの時は見通しを持ち自分から行動を起こすことができた。
陶芸班 : (1年) B	・製品になるまで間が開く。 ・分業制で完成までの見通しが持ちにくい。 ・仕上がりの判断が難しい。 ・作業内容は、同じ手順の繰り返しなのでやり直しができる。粘土を扱うのでやり直しができる。 ・基本、着座での仕事。	・教師の指示待ち ・一つ一つ教確認してから行動に移す ・手先はわりあい器用	・「自分で、どう直せばいいか」の言葉かけで、一度考える時間を取る。 ・完成品を見せたり、「まわりの生徒の活動を見て」の言葉かけで考える時間を取る。	・「おかしな所を見つけて直そう」の個別による具体的な言葉かけで、自ら考えて訂正することができるようになってきた。 ・「今日の仕事は何？」と自分から聞いてくる場面があり、 <u>見通しが持てる</u> とより意欲的になる。
リサイクル紙すき班 (1年) C	・分業制。完成までの見通しは持ちやすい。 ・作業内容は繰り返しのことも多い。 ・手先の器用さが必要。 ・基本、着座での仕事となる。	・後ろ向きの気持ち ・消極的な言動	・個別の言葉かけをしないで、全体に対して指示を出す。 ・積極的に行動する生徒を見本に行動を促す。 ・目標数を具体的に示す。	・何度も教師に報告しながら、自分の出来映えを教師に報告により確認することで、 <u>自信が出てより意欲的に作業に取り組むことができた</u> 。自信が付いたことで周りの生徒と協力する場面も見られるようになった。 ・紙をすく班から仕上げを行う班に移動することで、 <u>お互いに高めあ</u> っていこうとする意識が見られるようになって生産効率も上がった。
クリーン班 : (2年) D	・活動内容自体は固定的である。 ・空間把握、臨機応変力が必要である。 ・清掃の終了基準の判断は難しい。 ・今年度は下級生がいない。	・やる気や責任感に欠ける ・理解力や技術力がある	・同班に見本となる生徒を置き、一緒に活動することで、リーダーとしての言動や意識を高めていく。 ・教師による個別的な言葉かけは極力少なくする。	・見本の生徒の取り組む姿勢が悪いとそのまま活動が低下する場面が見られた。 ・先輩の活動の様子を見て、技術面での課題を自分なりに振り返り確認し、改善していくことができた。 ・清掃能力面で本児より課題が多い生徒とのペアを組むことで責任感が出ることを期待したが、あまり関係なく自分のペースで作業を進めるだけであった。 ・先輩のリーダーシップはすごいと持った。でも自分ではできない。作業班も物作りの班を希望したい。と話す。

手工芸班	<ul style="list-style-type: none"> ・分業制だが、製品の完成までの見通しは持ちやすい。 ・用具（道具）を使って細かな作業を行う。 ・作業は同じ手順の繰り返しが多い。 ・基本的に着座での仕事となる。 	該当者無		
リサイクル ペットボトル班	<ul style="list-style-type: none"> ・単純作業。一つの行程で作業を完結する。 ・製品自体の正確性は低い。 ・あまり器用さは問われない。 	該当者無		
木工 班	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの班（3種類の製品）に分かれてそれぞれ分業制で行う。 ・大型の機械（火気も含む）を利用した作業で安全面に十分な配慮を要する。 ・同一規格でわりあい大型の製品を作る。 	該当者無		
喫茶サービス班	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけでなく相手を意識しながら活動する。 ・場面によっては、臨機応変な態度も必要となる。 ・飲食を伴い衛生面に注意して行う。 ・直接的に相手に感謝されたり、苦言を言われることもある。 ・正しい言葉遣いや姿勢、笑顔も必要である。 	該当者無		

(2) 生徒タイプ別指導

実態	今後の作業班の選択（参考）	得意な作業内容	教師の言葉かけ	他生徒等モデル的な存在	卒業後の適性と思われる進路
Aタイプ (2年:A)	農芸班より 手工芸班	単純で、繰り返して きる作業	個別に簡潔で具体的 指示が必要	あまり必要で はない	工場のような流れ 作業のある仕事
Bタイプ (1年:B)	陶芸班より 木工 班	見通しが持てる作業 完成形が見える作業	個別に簡潔で具体的 指示が必要	あまり必要で はない	物作りの仕事
Cタイプ (1年:C)	紙すき班より 手工芸班	細かな作業 (体力はない)	個別の指示が必要	模範的先輩、 同僚が有効	正確性を求められ る仕事
Dタイプ (2年:D)	クリーン班より 木工 班	体を動かす作業 物を作る作業	間接的に行う自分で 考える時間をとる	模範的先輩が 有効	大人の方の中で体 を動かす仕事

7 成果と課題

環境を整えることには、教師の言葉かけや見本となる先輩がいるなどの他に、作業種も考えることも大切である。高等部の作業学習の大きな目的は、どの作業班に入っても変わらないが、それぞれに班の特性があり、環境を整えるということでは、大きな要因の一つになることが再確認できた。

作業種

今回の対象生徒4名は、ここでは作業種が合っていないという結果となった。班によっては、単純作業がメインになる班、活動の見通しが持ちやすい班や持ちにくい班、また考える学習をメインにした班などがあり、生徒にとっては指示待ちだったり、必要以上の事を求められ結局はできなかったことで活動が消極的になってしまった生徒もいた。高等部では、現在8つの作業班がある。その班ごとに特徴があるのでそれらを活かした作業種を選ぶことは大切である。

教師の言葉かけ

説明が長すぎると、情報を整理することが苦手な生徒は何をやっているのか戸惑う。教師がその生徒の実態に合わせ端的に話したり、視覚的に作業内容を提示することで、多くの生徒はかなり楽に行動を起こしやすくなり、納得感を持って自ら進んで作業に取り組む姿が増えてくる。

また、教師からの肯定的な言葉かけで自信を持ち、活動が活発になった生徒がいたが、活動に不安を持って取り組んでいる生徒にとっては教師の一言で安心して作業を進めていく上で大きな一言となる。

「考えよう」とか「選択させる」という意図を持って言葉かけ「どうしたらよいか？」を行い時間をとることで、自分で考えようとする習慣や意識が出てくる。修正点に気づき、自分で直していくことができれば、「一人でできた」ということになるのだろう。

見本となる先輩、同僚

上級生やリーダーという意識で作業に取り組むことで、自信が出てきた生徒もいた。また、自分より能力が高い生徒たちの中で作業を行うことで、刺激を受け作業技術、作業効率が上がっていった生徒もいた。その環境がしっかりとしないと逆に、お互い「なあなあ」環境に陥り、結局自分のレベルも低下していつてしまうことが起きた。このように、一緒に作業する生徒同士の環境ということも、意欲的に取り組む上でとても大切であった。